

年度 2007 学期 後期	曜日・校時 金 3	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	人間の科学(人の老化と死, 高齢期社会を生きる) Human Sciences (Aging and Death)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人間科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 中園 一郎 / Eメールアドレス: nakasono@net.nagasaki-u.ac.jp / 研究室: 医学部基礎棟 6 階法医学教室 / オフィスアワー: 16:30 ~ 17:30			
担当教員(オムニバス科目等)	下川 功, 森 俊介, 内村公義, 池松和哉		
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: 「人の死」および「人の老化」の理解と, 尊厳死などの死生学, 並びに高齢期社会のあり方等について考える上での基礎的知識の修得. 授業方法: プリントなどの資料を用いるとともに, 実際の症例等を液晶プロジェクターなどで呈示し講義を行なう. 授業到達目標: 「人の死」および「人の老化」について理解できるようにする. 尊厳死などの死生学を説明できるようにする. 高齢期社会のあり方等について考察できるようにする.			
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 「人の老化と死」について病理・細胞生物学的に解説し, 尊厳死などの死生学(タナトロジー)に関する入門的講義を行なう. また, 高齢期社会をいかに生きてゆくべきかを検討する. 第1~3回: 人の死について I(中園一郎) 人の生から死への過程を概説し, 脳死および植物状態についても理解を深め, 人の死とは何かを考える. 第4~5回: 人の死について II(池松和哉) 乳幼児や成人に発症する急死例を呈示し, 人における突然(急)死について考える. 第6~8回: 細胞における老化現象(下川 功) 人の老化現象を細胞生物学的に理解するために, これまでに提唱されたエラー説とプログラム説に大別し, それぞれを概説する. また, 脳の老化と神経細胞の老化について老人痴呆症やアルツハイマー病等の症例を呈示する. 第9~14回: 高齢期社会を生きる(森 俊介, 内村公義) 「安心して死ぬ」とは, たとえ障害があろうと, 独り暮らしであろうと誰に気兼ねすることなく, 自分の意志で自分の死に場所を選べることである. そのような地域を実現するためには, 保健, 医療, 福祉の連繋が当然であるが, 地域社会の再構築が必須である. そのキーワードとなる「人は生まれ, そして死んでゆく」という人にとって絶対的なことについてタナトロジー(死生学)も含めて考える. 第15回: 通常授業: まとめ			
キーワード	人の老化, 人の死, 尊厳死, 死生学, 高齢化社会		
教科書・教材・参考書	教科書を用いず授業内容にそったプリント・資料を配付する. 参考図書など適宜紹介する.		
成績評価の方法・基準等	講義時間内, あるいは後に小テスト(30%)やレポート提出(70%)により評価する.		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			